

B E G I N N E R ' S
S P E C I A L

初心者



インターネットマガジン / 株式会社インプレスR&D
©1994-2007 Impress R&D

世間ではインターネットが大ブーム。しかし、

『実は、まだインターネットにつながっていないんです』

という人もたくさんいることだろう。

いざインターネットにつなげようと思っても、プロバイダーへの申し込みや、めんどろなソフトのインストールや設定が待っている。そんな面倒くさいことは、考えただけでうんざりしてしまうのは人情というものだ。ぼくらがやりたいのは、インターネットへの接続ではなく、接続したあとのインターネットの利用のはずだ。そう、接続のための苦勞なんかはできるだけ早く終わらせたい。そんな人のために、カンタンなセットアップへの道、それが今月の特集なのだ。

たし

特集

できた! インターネット接続

まだつながっていない人のための
パソコンで始めるインターネット[95年版]
インターネットマガジン編集部 編

【電話の用意】

普通の電話でOK! 最高で28.8Kbpsくらいで通信できる。ヘビーに使うならISDNを検討してもいいかも。

【パソコンの用意】

PC互換機やPC-98シリーズなどのウィンドウズパソコン、またはマッキントッシュが必要。オペレーティングシステムはウィンドウズNTもお薦めだ。

START



[選ぶ]
p058~p062

[選ぶ]
p058~p062



インターネットに

GOAL

[使う]
p074~p079



できた! インターネット接続
いよいよネットサーフィンだ!

【モデムなどの周辺機器の用意】

これから買うなら 28.8Kbps がお勧め。最低でも 14.4Kbps は必要。遅いモデムしか持っていないければ、思い切って買いなおしたほうがいいだろう。



[選ぶ]
p058~p062

【ソフトウェアの用意】

パッケージソフトもあるが、本誌のCD-ROM に入っているフリーソフトウェアで十分できる。ただし、パッケージソフトのほうがインストールはカンタンかも。



[選ぶ]
p058~p062

接続するまで

[つなく]
p074~p079



[選ぶ]
p062~p073



【ちょっと難しい設定】

プロバイダーからID がきたらいいよソフトウェアの設定だ。初心者には一番の難関。でも本誌の特集と別冊付録の設定ガイド、CD-ROM があれば意外とカンタンだ。

【プロバイダー選び】

あまりにも数が多すぎて選ぶのが大変。個人で使うなら値段の安いことは重要なポイント。パフォーマンス(性能)はそれほど大きく変わらない。

つなげる前にみんなが知りたい インターネットの素朴な疑問



『インターネットは難しい』とよく言われるが、ちょっとした疑問が解ければそんなに難しいものでは

ない。実践に入るまえに、編集部によく寄せられる素朴な疑問から解決していくことにしよう。

Q1：インターネットを使うにはどうしたらいいの？

A1：簡単にいうと、あなたのパソコンをすでにある『インターネット』のどこかにつなげばいいのだ。ではインターネットはどこにあるのだろうか？

もし、あなたの会社のLANがインターネットにつながっているようなら、会社のシステム管理者と相談してみよう。使い方はシステム管理者の指示に従うことにしよう。

では、会社がインターネットにつながっていなかったり、自宅のパソコンをインターネットにつなぐにはどうしたらいいのだろうか。それは『インターネットサービスプロバイダー(単にプロバイダーともいう)』と呼ばれる業種の会社に申し込みをして、電話線を使ってつなぐことになる。そう、ちょうどニフティサーブやPC-VANに申し込むみたいなものだ。

Q2：パソコン通信とインターネットはどう違うの？

A2：『インターネット』の意味は「インター(間)」+「ネット(ネットワーク)」ということで、ネットワーク同士の接続という意味なのだ。パソコン通信はそのネットワークの一つで、あなたの会社のLANもネットワークの一つなのだ。もちろん、首相官邸にもネットワークはあるし、アメリカのホワイトハウスにもある。これらのネットワーク同士をつなげるのが「インターネット」で、パソコン通信はそれに参加しているネットワークの一つということだ。あなたの会社がインターネットにつながっていれば、そこからニフティサーブにもログインできるし、ニフティサーブからあなたの会社のインターネットにもログインすることができるんだ。

では、自宅にもネットワークがいるのかって？ それは必ずしも必要ない。これから紹介するのは、端末型ダイアルアップIP接続サービスといって、パソコン通信のようにあなたのコンピュータ1台をインターネットにつなげる方法だ。

ダイアルアップIP接続とシェル型サービスの『できること、できないこと』

	WWW情報検索	WWWサーバー	CU-SeeMe (ビデオ会議)	電子メール	FTP(ファイル転送)	ソフトウェア
ダイアルアップサービス						TCP/IPソフト
シェル型						ターミナル 通信ソフト



Q3：プロバイダーという言葉をよく聞くけど？

A3：『株式会社プロバイダー』という会社があるわけではない。これは業種の名前なのだ。正確には『ネットワーク・サービス・プロバイダー(略して、NSP)』という。つまり、ネットワーク接続サービスを提供する会社という意味だ。そう、電器瀬品を売っているのが電器屋さんなら、インターネットの接続サービスを売っているのがプロバイダーというわけだ。日本にはプロバイダーは30社くらいある。大企業がやっているものから、ユーザーグループ的にやっているもの、それに地方自治体が行っているものなど、さまざまだ。もちろん、値段もさまざま。各社の違いは、サポート体制や使っている機材の性能、それから全国にアクセスポイントを設置しているかなどの設備面が異なる。専用線でつながらなれば、ダイヤルアップIP接続をするのであれば、現在のところは基本的な違いはないといえるだろう。

Q4：通信ソフトは何を使えばいいの？

A4：いままでパソコン通信をやってきた人は、いま使っている通信ソフト、たとえばWTERMやCCTなどが使えるかどうか気になるところだ。結論は『ダイヤルアップIP接続サービスの場合は使えない』ということだ。残念ながらインターネットにアクセスするためには、別のインターネット専用のソフトが必要になる。パッケージソフトとしても市販されているものがいくつもあるし、フリーソフトウェアとしても手に入れることができる。このあたりはパソコン通信用のソフトと事情は同じだ。

ただし、シェル型サービスという形態で接続する場合はいままでの通信ソフトで大丈夫。でもこのサービスはUNIXを使ったことのない人にはおすすりできない。

Q5：いまある電話線でも大丈夫？

A5：もちろん、大丈夫。多くの人は普通の電話線を使っている。しかし、もっと高速な通信をしたかったり、たまたま引っ越しで、電話線を引き直すのであれば、ISDNを検討してみるといいかもしれない。ISDNはいままでの電話線と同じ程度の使用料金で高速なデジタル通信ができる。デジタル通信だから、ノイズがのったりして通信速度が落ちることなく、快適な通信ができる。ISDNを使ったサービスは、将来的には128Kbpsという、個人向けには超高速なサービスも提供される予定なので、注目株だろう。



選ぶ

すべての原点は『モノ選び』から始まる。ダイヤルアップIP接続に必要なのは、電話線、パソコン、周辺機器、ソフトウェア、そしてプロバイダーだ。ここでは後悔しないモノ選びのためのポイントをまとめてみた。

まずは、モノ選びから始めよう!

個人がインターネットに使う電話回線は、普通の電話に使っている『アナログ』とISDNといわれている『デジタル』の2種類がある。アナログの回線の場合、現在のところ28.8Kbps（1秒間にアルファベットで2880文字、漢字で1440文字送ることができる）程度が限度。一方、ISDNならプロバイダー側のサービス内容やあなたの機材にもよるが、32Kbpsから64Kbpsで通信することができる。64Kbpsならアナログの倍くらいの速度だ。また、ISDNの可能性としては、将来128Kbpsでの通信も技術的にはできることがわかっている。また、アナログ回線の場合は、地域や時間によって回線の品質が低下して、28.8Kbpsでは通信できないこともあるようだ。しかし、ISDNならその速度で通信できることが保証されるのだ。

このようなことを考えると、これから引っ越しをしたり新築したりする人で、本格的にインターネットを使おうと思っている人はISDNへ切り替えてみてはどうだろう。もちろん電話やファクシミリなども使える。しかも、通常の電話なら同時に2回線使える。気になるお値段だが、導入費用は建物によっても異なるが数万円程度。通話料金はISDNもアナログも同じだ。ただし、基本料金は2回線分になる。でも快適な通信のためなら決して高い投資ではない。

【電話回線】

なにはなくとも





PC互換機 (DOS/V機)

どんどん高速化かつ低価格化しているPC互換機。世界の標準機となっていることから、ISDNカードはもちろん、ビデオカードなども米国製のものなど安価に手に入れることができる。また、ウィンドウズNTなどの最新の基本ソフトウェアがこれらの周辺機器をあらかじめサポートしてくれているので、設定もカンタンだ。インターネットで手にいれるフリーソフトウェアもPC互換機用に作られていることが多い。

PC-9821シリーズ

日本でもっとも使っている人が多いパソコンといえばまちがいなくコレ。ウィンドウズがあれば、ウィンドウズ対応のインターネットアプリケーションを使うことができる。ただし、PC-9821An、X、Npシリーズ以外では、シリアル部分が非力なので、28.8Kbpsで通信する場合は、高速なシリアルボードが必要なこともある。



マッキントッシュ

Macintosh LC520

なんといっても使うのが簡単。インターネットの設定も一番カンタンだ。初心者でも接続に悩むこともない。

ノートパソコン

ThinkPad230Cs

PC互換機の部類に入るノートパソコン。重さわずか1.9キログラム、大きさはB5ファイルサイズと持ち運びに便利。PCカードスロットはモデムやイーサネットカードなど(タイプ2)が2枚同時に使用できる。またはハードディスクなどの(タイプ3)も1枚使える。



特別なものでなくてもよい

パソコン通信ならワープロの通信機能を使ってもできたけど、インターネットとなるとちょっと無理。それにソフトウェアもそれほどいろんな機種用のものがあるわけでもないの、ウィンドウズの動くパソコンがマッキントッシュを用意するしかない。

もちろん高速なマシンであるにこしたことはないのだが、ダイヤルアップ接続の場合、そんなに高速に通信するわけでもないの、そこそこのもので十分。ただし、注意しなければならないのは、通信ポートであるRS-232Cの性能。NECの従来PC-9801シリーズでは、比較的最近のモデルを使わないといくらモデムが高速でも通信ポートの性能が下回ってしまいモデムの性能を使いきれない。その場合は高速RS-232Cボード(シリアルボードともいう)がモデムメーカーなどから発売されているので、モデムと同時に購入しておく必要がある。

Q & A

ノートパソコンでも大丈夫?

もちろん大丈夫。インターネットを使いこなしている人でノートパソコンを持ち歩き、あちこちから自分の会社や研究室のマシンにログインして仕事をしたり、原稿を書いて世界中から送ってきたりする人はたくさんいる。編集部ではアメリカのコンピュータショー取材して、そのレポートや写真をアメリカから送ったりしている。

選ぶ

C H O I C E

通信に欠かせないのが、モデム。パソコンと電話回線の間につないで、パソコンのデータを電話線で通信できるように変換する機械だ。通信できるスピードはモデムによって違うが、これから買う人は28.8Kbpsがおすすだ。基本的には通信速度と形で選べばいいのだが、ウィンドウズNTから使う場合は、基本ソフトウェアが対応しているモデムかどうかをチェックした方がいい。そうでないとうまく使えないこともある。

そしてお店で買うときには、モデムに付属しているケーブルがマッキントッシュ用かPC互換機用か9801用かということもチェックしておこう。もし適合していなければ、ケーブルをその場で買ってしまおう。分からなければ自分の機種名をお店の人に言えば教えてくれるはずだ。

ISDNを使う場合はちょっと複雑だ。非同期38.4Kbpsでつながる場合は、モデム付きのターミナルアダプタ(TA)を購入することになる。DSUという機器まで含まれているものもお勧めだ。

一方、同期64Kbpsで接続したい人は、マッキントッシュやPC互換機の拡張スロットに入れるタイプのISDNカードを使う。これを入れておけば、モデムやTAなどの装置は必要ない。

ISDNを使う場合の詳しいことは、66ページの『つなぐ』であらためて説明することにしよう。



モデム関係

9801シリーズ用高速シリアルカード / RS1

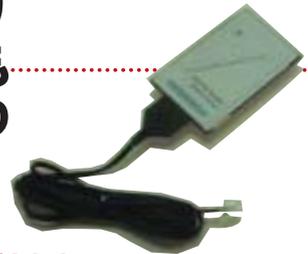
価格：29,800円

問い合わせ先：サン電子株式会社 TEL 0120-863810

従来の9801シリーズの通信ポート(RS-232Cとかシリアルポートという)は高速な通信には対応していない。それが28.8Kbpsという高速モデムが登場してにわかに問題になっている。そこでモデムメーカーでは高速なRS-232Cカードを用意している。これを拡張スロットにいれると、高速な通信に対応した第2、第3の通信ポートとなる。最高115.2Kbpsまで対応し、ウィンドウズ3.1用のドライバが付属している。もし、自分のマシンで28.8Kbpsのモデムがつかぬかどうか分からない人はお店で確認したほうがよい。

【周辺機器】

パソコンと電話の仲をとってみよう



TravelCard FAST28.8

価格：98,000円

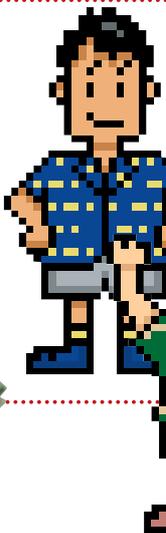
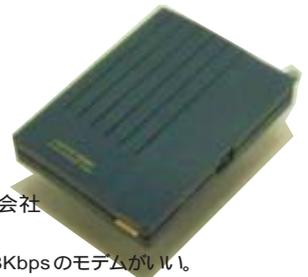
問い合わせ先：株式会社ヒューコム TEL 03-5306-7333
PCMCIAタイプIIのカード型。こんなに小さくても28.8Kbpsで通信可能。最近発売されるノートパソコンはPCMCIAタイプIIスロットは2つ付いているものが多いので、1つをモデム、1つをイーサネットカードにしておくのが便利。

MS288AF

価格：44,800円

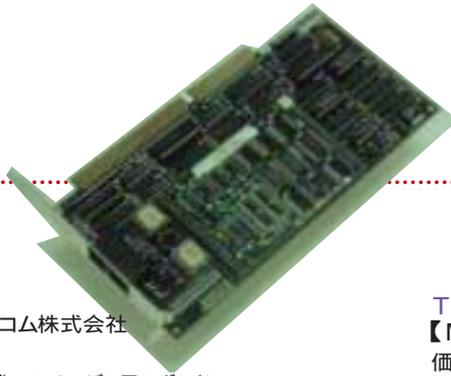
問い合わせ先：サン電子株式会社
TEL 0120-863810

これから買うなら間違いなく28.8Kbpsのモデムがいい。購入時のチェックポイントとしては、V.34という規格に対応しているかどうかだ。このMS288AFならV.34への対応もバッチリ。いま買えば、InfoSphereの1か月無料試用権がついてくる(ただし、数に限りがある)。



PC IMAC
【PC】【64K】

価格：179,000円
 問い合わせ先：住商データコム株式会社
 TEL 03-5276-3801
 PC互換機（いわゆるDOS/V機）のISAバス用のボード。
 米国デジボード社のもの。ウィンドウズNTではこのボ
 ードを標準でサポートしているので、簡単に組み込める。



TimeLiner Internet 64
【MAC】【64K】

価格：84,800円
 問い合わせ先：有限会社シー・エス・エス
 TEL 03-3979-8123
 マッキントッシュのNuバス用のボード。難しいハード
 ウェアの設定などなく、ボードを差し込むだけでOK。た
 だし、あなたのマックのNuバススロットが空いているこ
 とを確認しておこう。



ISDN 関係



LinkBoy Poket
【PC】【MAC】【38.4K】

価格：49,800円
 問い合わせ先：株式会社ビー・ユー・ジー
 TEL 0120-804100
 電池でも駆動するポケット型のTA + モデム。マッ
 キントッシュ用セットとPC互換機用セット、そし
 て9801用セットがある（ケーブルの違いのみ）



LinkBoy D64K
【PC】【MAC】【64K】

価格：59,740円
 問い合わせ先：株式会社ビー・ユー・ジー
 TEL 0120-804100
 PCカード（PCMCIA）スロットのあるパソコン用。
 ウィンドウズ用とマッキントッシュ用のソフトウェ
 アが付属している。



ISDN 関係

PC-LINK TA/DSU
【PC】【MAC】【38.4K】

価格：138,000円
 問い合わせ先：沖電気工業株式会社 / 株式会社沖データ
 TEL 0120-296007：PCLINK インフォメーションセンター
 DSUとTAとモデムがセットになっているもの。これがあれば、NTT
 からDSUをレンタルする必要もなく、トータルでは割安。



Q & A いまある機材で64Kできる？

インターネットマガジンで少し前に連載した『ISDN探検隊』でも紹介した
 沖電気のPC-LINK TAやビー・ユー・ジーのLinkBoy Poket。これで最近
 プロバイダーが始めた同期64Kbpsの通信ができるのだろうか？ 答えは『い
 まのところできない』ということになる。いずれもハードの性能はあるのだ
 が、現在のところ64Kbpsで使うためのドライバソフトがないのだ。

選ぶ

C H O I C E

インターネットに接続するためにはインターネット専用のソフトウェアが必要になる。いままでパソコン通信で使ってきたものでは残念ながらだめだ。ただし、シェル型サービスだけを使うのなら、パソコン通信で使ってきた通信ソフトウェアで十分だ。

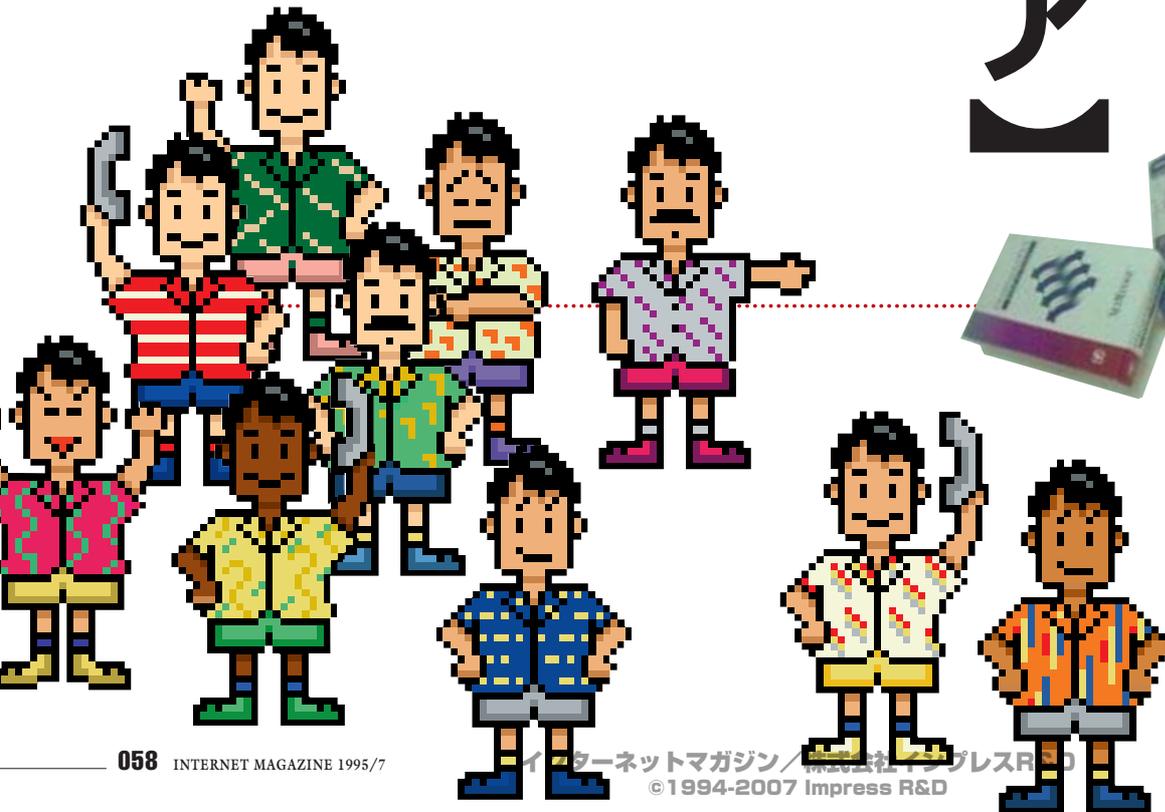
ソフトウェアは、パッケージソフト（商品）として発売されているものとフリーソフトウェアとして流通しているもの（本誌の付録のCDにも多数収録されている）そしてウィンドウズNTのようにあらかじめ添付されているものがある。

パッケージソフトになっているものは、必要なものがだいたい付属しているし、なにしろ安定していて、それほど苦労せずに動くというメリットがある。もちろん専用のインストールプログラムも付いている。ただし、値段も数万円は覚悟しなければならない。

一方、フリーソフトウェアはそれほどお金はかからないが、マニュアルが英語だったり、インストールもちょっと面倒だったりする。もちろん、問題点も利用者側で解決しなければならない。

ソフトウェア

フリー派？パッケージ派？



カメレオン

価格: 77,000円

問い合わせ先: ネットマネージンジャパン株式会社
TEL 03-3221-8400

米国をはじめ、日本でもインターネットアプリケーションの定番ともいえる商品。ダイヤルアップ接続のほかにLANへの接続も可能。電子メール、ネットニュース、WWWのブラウザなど、必要になるものは一式付属している。ただし、WWWブラウザは日本語も表示できるが、メニューは英語のまま。



インターネットオフィス

価格: 19,800円

問い合わせ先: トランスコスモス株式会社
TEL 03-3584-2958

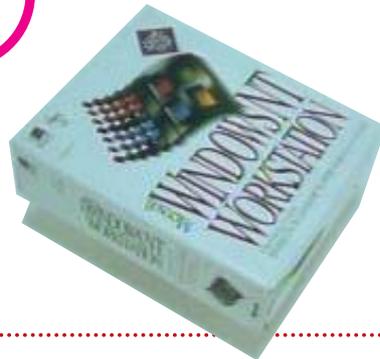
米国のスプレイ社が開発したものの日本語化バージョン。WWWのブラウザは、日本語表示もできるし、メニューも日本語化されている。その他、ゴファー、電子メール、ニュース、TELNETなども含まれている。



ウィンドウズNT 3.5

価格: 38,800円

問い合わせ先: マイクロソフト株式会社
これはアプリケーションパッケージではなく、『オペレーティングシステム(基本ソフトウェア)』。ウィンドウズ3.1の上位であるウィンドウズNTでは、さまざまなネットワーク機能があらかじめ用意されている。もちろんダイヤルアップIP接続機能もあり便利。なんといっても安定性は抜群。ただし、快適に動かすためにはメモリ20メガバイト以上必要。



InterPPP for Macintosh

価格: 19,800円

問い合わせ先: 株式会社クニリサーチインターナショナル
TEL 06-538-9701

接続時の状態も一目で確認できるユーザーインターフェイス。TCPとAppleTalkの双方をサポートしている。通信プロトコルはPPPのほか、SLIPもサポートしている。



トランペット(ウィンドウズ用)

ウィンドウズのTCP/IPとPPPのドライバソフトウェア。従来はPPPへの対応がなかったので本誌でもあまりおすすめしていなかったが、ついにPPPに対応した。設定はちょっと面倒だが、コツがわかればそんなに難しいものではない。アプリケーションのアイコンをクリックしただけでトランペットが立ち上がり、自動的に電話をかけてくれるような設定も可能。



インターネットコネクトPPP

価格: 14,800円

問い合わせ先: 株式会社ディアイティ
TEL 03-5634-7651

マックOSが7.5から標準で提供するMacTCPというソフトウェアを中心に構成される。このインターネットコネクトIIは、MacTCPの下で動き、PPPプロトコルで通信をする。



MacTCP+MacPPP(マッキントッシュ用)

いまやマッキントッシュでPPPをする場合の定番となったソフトウェア。製品版を必要としないほど安定しており、よくできている。このMacPPPを使っていて不都合があったという話を聞かない。ただし、同期64Kbpsでの通信をする場合は、『2.1SD』というバージョンを使用しなければならないことに注意。



MacTCPとWinSock

インターネットのアプリケーションは、PC互換機の場合はWinSock(ウインソックと発音する)という機能を、マッキントッシュならMacTCPの機能を使って動く。つまりここで紹介したアプリケーションをインストールすると、こうした機能が使えるようになるのだ。フリーソフトウェアを探してきて使う場合は、それぞれWinSockかMacTCPを使って動くか書いてあるものなら、基本的には動作するはずだ。

選ぶ

C H O I C E

インターネットにつなぐためには、どこかのプロバイダー(ネットワークサービスプロバイダー)に申し込みをして、アカウント(ID)を取得しなければならない。1995年5月1日現在、編集部で存在を確認しているプロバイダーは35社ある。もちろん、運営しているのは大企業からユーザーグループまでさまざま。それぞれのプロバイダーの詳細については本誌6月号で特集しているのでお読みいただきたい。

ここではあらためて、選択のポイントを簡単にまとめてみた。



料金が安い

企業が会社ぐるみで使うなら別だが、個人で利用するなら、値段は非常に重要なポイント。できるだけ安価なサービスを選びたい。



自宅のそばにアクセスポイントがある

料金はプロバイダーに払う分だけではない。電話局にも通話料を払わなければならないことを忘れずに。



つながりやすい

申し込んでもいつでも話し中では意味がない。プロバイダーによっては、夜間混んでいるところ、昼間混んでいるところもある。



すぐに使える

申し込んでから、一か月も待たされるプロバイダーもある。

プロバイダー

ここがインターネットへの入り口



右のページの表は、ダイヤルアップIP接続サービスを提供しているプロバイダーとそのサービス内容をまとめている。PPPかSLIPかは接続方式の違いだ。この違いによってソフトウェアも違ってくるのだが、現在ではほとんどの場合、PPPを使っているので問題はない。

選択する際に重要なのは、『PAP』方式を採用しているかどうかだ。PAPに対応し

ていないと、接続時の設定がちょっと面倒になる。技術的にいうとPAP方式という利用者の認証の方法だ。興味のある人は右のページのQ&Aを読んでほしい。

そして、使いたい通信速度も要チェックだ。だんだんと28.8Kbpsへの対応はあたりまえになってきている。ISDNを使いたい人は『38.4Kbps』か『64Kbps』をチェックしよう。単にISDNのサービスを提供して

いるからだけで選択するとあとで後悔することになるかもしれない。それによって必要な機材も異なるのだ。

またこの表の右端にある『設定ファイル』という欄に印が付いているのは、本誌のCD-ROMの中に「トランペット」(ウィンドウズ用)とウィンドウズNTのリモートアクセス用の設定ファイルが付属しているプロバイダーだ。詳しくは68ページ参照。



ダイヤルアップIP接続を提供しているプロバイダー（PAP方式なので比較的设置がやさしい）

プロバイダー名	PPP	SLIP	PAP	モデム速度	ISDN 38.4K	ISDN 64K	アクセスポイント（カッコ内は予定）	設定 ファイル
IIJ	○		○	28.8Kbps	○	予定	東京、横浜、名古屋、大阪、福岡	○
InfoWeb	○		○	28.8Kbps	×	×	東京（大阪、札幌、仙台、富山、川崎、名古屋、広島、福岡）	×
IBMインターネット接続サービス	×	○	△	28.8Kbps	×	×	東京	×
東京インターネット	○		○	28.8Kbps	予定	×	東京（横浜、千葉、大阪、名古屋）	○
NISインターネット	○		○	28.8Kbps	×	○	東京（札幌、仙台、名古屋、大阪、神戸、福岡）	×
TWICS	○		○	14.4Kbps	×	予定	東京	○
WIN	○	○	○	28.8Kbps	○	○	東京	×
リムネット	○		○	28.8Kbps	○	×	東京	○
BEKKOAME/INTERNET *1	○		○	28.8Kbps	○	×	札幌、松戸、東京、横浜、大阪、神戸、松山（仙台、千葉、大宮、宇都宮、名古屋、京都、島根、広島、福岡）	○
InterRamp	○		○	14.4Kbps	×	予定	東京	×
ASAHIネット *2	○		○	28.8Kbps	×	予定	東京[D]、横浜[A]、札幌[I]、仙台[I]、新潟[I]、富山[I]、名古屋[I]、大阪[I]、高松[I]、広島[I]、福岡[I]	○
グローバルオンラインジャパン	○	○	○	28.8Kbps	予定	×	東京	○
InfoSphere *3	○		○	28.8Kbps	○	○	東京、大阪、名古屋、仙台、新潟、金沢、富山、福井、浦和、千葉、横浜、広島、福岡	○
アスキー・インターネット接続サービス	○		○	28.8Kbps	×	○	東京	○

*1 神戸アクセスポイントはISDN 38.4K未対応
*3 金沢アクセスポイントはISDN64K未対応

*2 横浜アクセスポイントは9.6K（付加料金10円/分）

ダイヤルアップIP接続を提供しているプロバイダー（PAP方式でないので比較的设置が難しい）

プロバイダー名	PPP	SLIP	PAP	モデム速度	ISDN 38.4K	ISDN 64K	アクセスポイント（カッコ内は予定）	設定 ファイル
New COARA	○		×	28.8Kbps	予定	×	大分	○
JETON	○	○	×	28.8Kbps	○	×	東京、大阪、福岡	○
サイバー・テクノロジーズ	○	○	×	28.8Kbps	×	×	東京	○
tcp-ip	○		×	28.8Kbps	予定	×	名古屋、浜松、四日市、豊橋	○
ParkPlace	○		×	14.4Kbps	×	×	東京	×



Q & A PAPって何だろう？

プロバイダーによって、設定のちょっと難しいところと、カンタンなところがあるのは、実は「ユーザー認証のしくみ」が違うからだ。簡単な方は「PAP認証」といって、ソフトのダイアログボックスにユーザー名とパスワードを入れるだけでOK。あとは自動的にやってくれる。一方、ちょっと難しいほうはログインするときの手順をプログラムのようにあらかじめ書いておかなければならない。どのプロバイダーがどの方式をとっているかは、実際に申し込みをしてマニュアルが届かなければわからない。上の表では編集部が独自に調査した結果をまとめてあるので参考にしてほしい。とりあえず初心者には、「PAP認証」をサポートしているところがオススメだといっておこう。

「つなぐ」

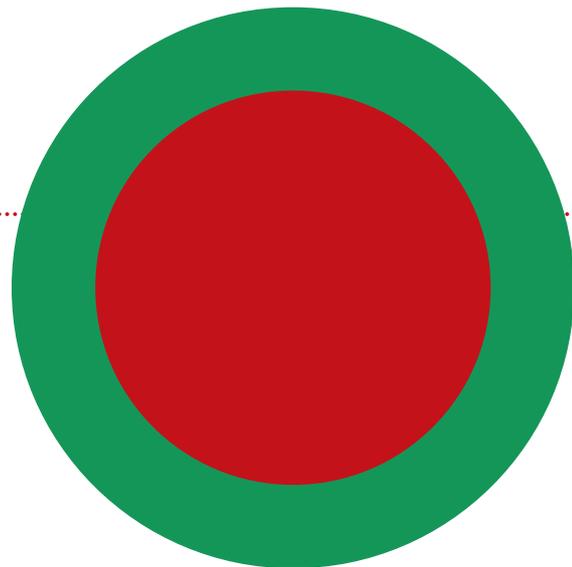
パソコンとモデムも買った。プロバイダーにも申し込んだ。あとはソフトウェアの設定だけだ。でも、ソフトウェアの設定ってなにをするんだろう。専門的な知識が必要なのは？でも大丈夫。ここではフリーソフトウェアを使ってインターネットにつなげるまでの手順をいっしょにやってみよう。

機械をつないで、ソフトでおまじない。10分で終了！

それではいよいよ機器を接続して、ソフトウェアの設定をすることにしよう。

ハードウェアの接続方法は、右のページのようなものだ。アナログ回線の場合も、ISDN回線の場合もそれほどむずかしいものではない。しかし、LINEとPHONEの端子を間違っつなげることはよくあるので、うまく動かない場合は要チェックポイントだ。

ソフトウェアの設定はちょっとむずかしいが、はやる気持ちをおさえつつ、本誌と付録の『プロバイダー完全接続ガイド』を参考にして、落ちついてやってみよう。



まず、右のページの図を見てほしい。アナログ回線を使う場合、モデムをつなげばOKだ。しかし通信速度は、いまのところ最大で28.8Kbp。電子メールなどの文字を使った通信に使うにはそれほど支障のない速度だが、ネットスケープなどを使ってWWWを中心に使おうとすると、かならずしも快適とはいえない。

ISDNを使うのなら、38.4Kbpsの「非同

期」という方法と、64Kbpsの「同期」という方法がある。64Kbpsを使うためには、機材とソフトウェアの関係から、現在のところつぎのような組み合わせしかできない。

- ・PC互換機とウィンドウズNTの組み合わせ
- ・Nuバスを持ったマッキントッシュ
- ・PCカードスロットのあるノートパソコン

これ以外の人は残念ながら64Kbpsでの接続はあきらめなければならない。ただし、今後は各機種用のものも発売されると思うので期待してしてほしい。

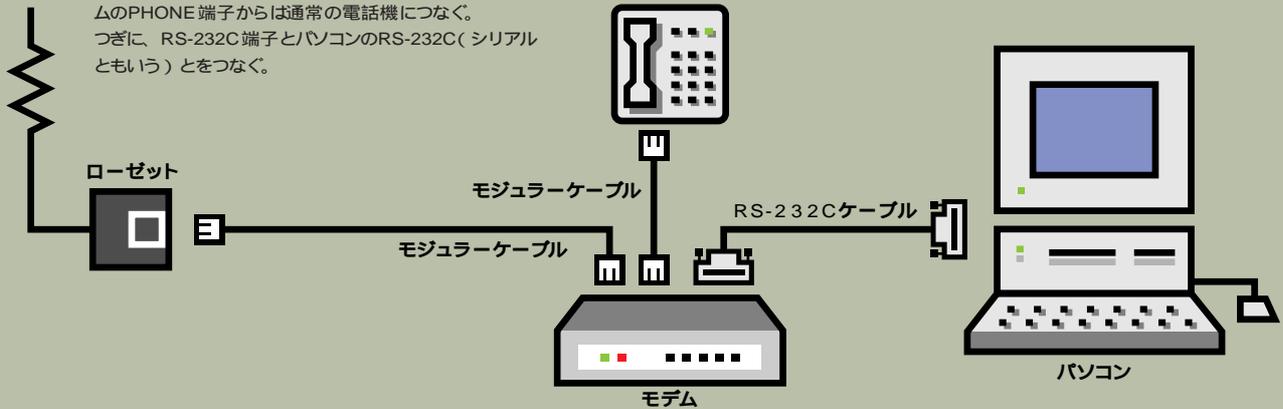
また、どうしても自分で設定する自信のない人は、つぎのページで紹介しているようにプロバイダーが用意しているハードウェア込みのスターターキットを利用してみるのも手だ。



アナログ回線とISDN回線への機器のつなぎかた

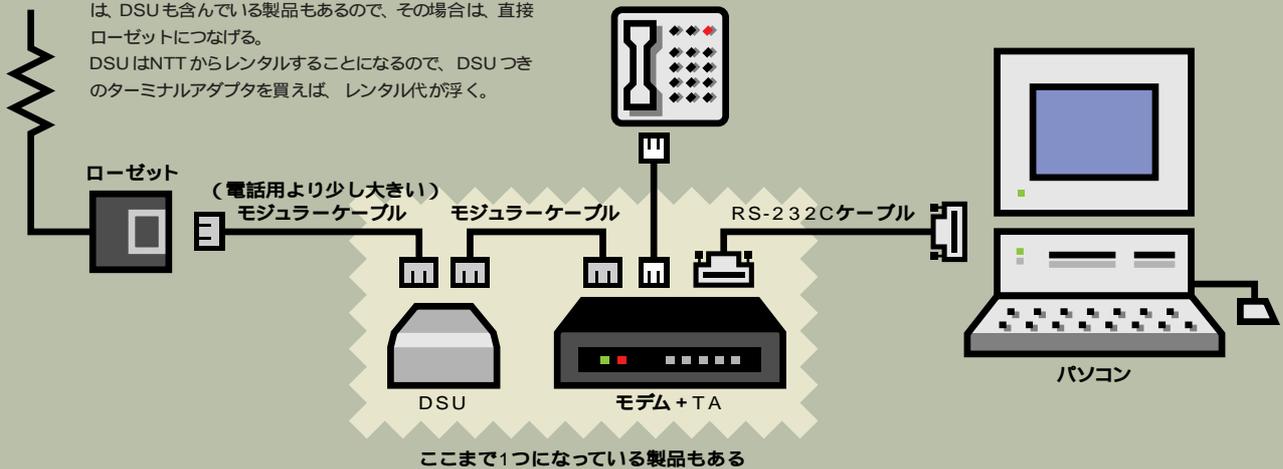
アナログ回線の場合

壁から出ている電話の接続口(ローゼット)からモジュラーケーブルでモデムのLINE端子と接続する。そして、モデムのPHONE端子からは通常の電話機につなぐ。つぎに、RS-232C端子とパソコンのRS-232C(シリアルともいう)とをつなぐ。



ISDNの場合

一般的には、ローゼットからDSUという箱がつながっている。そこからターミナルアダプタのLINE端子を接続する。あとはアナログ回線と同じ。ターミナルアダプタによっては、DSUも含んでいる製品もあるので、その場合は、直接ローゼットにつなげる。DSUはNTTからレンタルすることになるので、DSU付きのターミナルアダプタを買えば、レンタル代が浮く。



Q & A

64 Kbpsってどのくらい速い?

64Kbpsってというのは、いったいどのくらいの速度なんだろう。やっぱり28.8Kbpsの倍くらい速いだろうと編集部でも期待に胸を踊らせながらアクセスしたわけだ。WWWで同じ画面を表示させた場合(画像の多いページ)違いは20~30パーセントくらい速いかなあという程度だった。これは、回線の混雑度合いによるのだが、下流のプロバイダーの利用者が64Kbpsでつながっていても、上流で遅いところがあれば、十分な速度を体感できないのだ。



続々登場するインターネットスターターキット ハードウェア込みのスターターキットも登場!

ハードの設定やソフトのインストール、ましてやプロバイダーごとの値の設定など、初心者にはなにかと難しいのがいまのインターネットの実情。パソコンに慣れていない人にとっては最難関だ。

そのようななかNIS インターネット（ネットワーク情報サービス社）やインフォソフィア（NTT PC コミュニケーションズ社）では、アクセスのためのID はもちろん、モデムやISDN アダプタがセットになったスターターキットを発表した。

さらにNIS では、パソコン本体にISDN アダプタをあらかじめ装着し、必要なソフトソフトウェアがインストールされているスターターキットも用意しており、パソコンを買えば設定は全く必

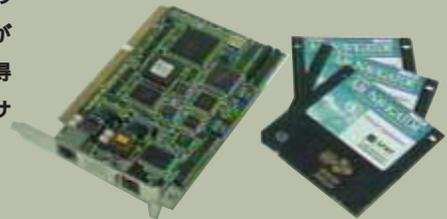
要ないというセットだ。機種はウィンドウズとマッキントッシュが選べる。それぞれの値段は下記のとおり。値段的にもかなりおトクなパックだといえるだろう。個人はもちろん、企業でも設定を人している時間のない人は検討に値するだろう。

また、IIJ（インターネットイニシアティブ社）では「インターネットオフィシャルスターターキット（アスキー出版局刊）」を書籍として発売した。本誌のCD-ROM にも同様のIIJのスターターキットが付属している。このスターターキットには、インターネット接続ソフトとアプリケーション、そしてIIJへのオンラインサインアップの電話番号が含まれており、その場でアカウントが得られるようになっている。オンラインサ

インナップで申し込んだ場合、通常3万円の初期費用が1万円になる。また、1万円分のフリーアクセス権がついている。つまり、いまなら3万円分おトクというわけだ。

本誌の付録のCD-ROM にも、IIJ スターターキットは収録されている。詳しくは別冊付録に記載されているが、このスターターキットでも、初期費用が3万円から1万円になるなどの特典がついている。

写真下：NIS のスターターキットの例
ボードはエルミック社製。個別製品としても発売予定

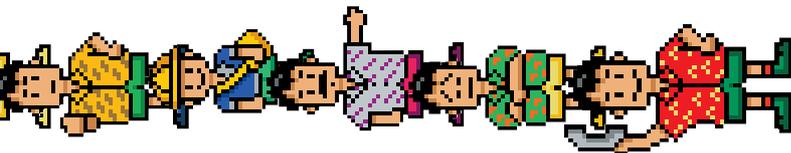


スターターキットの価格一覧

プロバイダー名	内容	値段
NIS	アカウント(ID) / マッキントッシュまたはPC 互換機 / ISDN カードまたはモデム / ソフトウェア	378,000 円から
NIS	アカウント(ID) / ISDN カードまたはモデム / ソフトウェア	38,800 円から
InfoSphere	アカウント(ID) / ISDN 用ターミナルアダプタ付きモデム / ソフトウェア / 設定ファイル	99,800 円
IIJ	「インターネットオフィシャルスターターキット」オンラインサインアップ / ソフトウェア	2,400 円

Q & A オンラインサインアップ?

オンラインサインアップとは、書類で申し込むのではなく、通信ソフトで仮にログインして、申し込みをする方式だ。この方式なら郵送にかかる時間を節約でき、なるべく早くID を取得したい人には便利だ。すでにリムネットはこの方式をとっていて、約15分でID を取得できる。



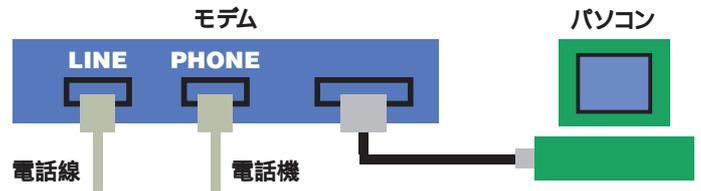
[つなく]

C O N N E C T

【モデムをつなぐ】

パソコンと電話の仲をとってもつ

まず、パソコンとモデムと電話回線をつなごう。パソコンのRS-232Cとかシリアルチャンネルとかと言われている差し込み口とモデムをつなぐ。そして、電話線をモデムの「LINE」と書いてあるところに差し込み、「PHONE」と書いてある差し込み口には電話機をつなぐ。これで完了だ。



PC/AT互換機の場合

マウスが繋がっているポートもシリアルポートなので、モデムをつないだシリアルポートはCOM2になることが多い。

PC-9801シリーズの場合

本体に内蔵されているRS-232C(シリアル)ポートは、一つだけ。ここにモデムをつなぐ。ただし、1年くらい前に発売されたマシンでは、RS-232Cの性能がモデムの性能に追いついていないので、28.8Kbpsでの通信にはきびしい。そんなときは、モデムメーカーが発売している高速RS-232Cボードを購入すること。

マッキントッシュの場合

受話器の絵の書いてあるポートにモデムをつなぐ。以上終わり。なんてカンタンなんだ。



電話線のコネクタ(モジュラージャック)の形は基本的にどこでも同じだが、2線式と4線式がある。事務所やホテルで多機能電話機を使っている場合は4線式のことがあり、うまくモデムが繋がらない可能性がある。

パソコンとつなぐRS-232C(シリアルポート)のコネクタの型は機種によってまちまちだ。マッキントッシュは丸型で受話器の絵の描が書いてある。PC-9801シリーズは、

25ピンの大型のものを使っている。PC互換機は、9ピンの小型のものだ。ただし、25ピンのコネクタと9ピンのコネクタは変換コネクタを使えば、お互い接続することもできる。このような問題があるので、モデムを購入する際には注意が必要だ。

[つなく]

C O N N E C T

ISDNには、同期と非同期という2つのつなぎ方がある。『同期』というのは、64Kbpsの高速通信をするモードで、基本的には拡張スロットにISDNボードを差し込んで、直接ISDNのモジュージャックと接続する。

一方、『非同期』というのは、いままでアナログ通信で使っていたモデムの出力（つまりアナログ）をなんとかISDNにのせようというやり方で、通信速度は38.4Kbpsだ。壁に出ているモジュージャックからDSUと言われるNTTのお弁当箱みたいな機械を通じて、ターミナルアダプタ（TA）と言われる機械をつなぎ、モデム、そしてパソコンを接続する。最近ではモデムとTAが一体になった製品が多い。また一部の製品には、DSUまでも収容してしまっているものがある。

ウィンドウズNT + DigiBoard PC-IMAC

ハードウェアの設定：PC-IMACをISAバスに差し込む。ボードには小さなスイッチが付いていて、あなたのマシンに装着してある他のボードとのかねあいで設定を変更しておく。よくわからなければ、とりあえずなにも変更せずに差し込んで、うまくいかなければ、詳しい人に相談してみよう。
ソフトウェアの設定：ウィンドウズNTをイ

ンストールしたら、コントロールパネルのネットワークアイコンをクリックする。ここで『アダプタカードの追加』ボタンを押すと、ボードの一覧が表示されるので、この中から、『DigiBoard PCIMAC - ISA アダプタ』を選択する。そして『続行』ボタンを押せば、ドライバの組み込みは完了。途中でボードの設定についての画面が出るが、付属のマニュアルを見ながら設定すればよい。

ノートパソコン + LinkBoy D64K

ハードウェア：PCカードスロットにLinkBoy D64Kを差し込む。
ソフトウェア：ウィンドウズから使う場合、マニュアルを見ながらsystem.iniというファイルを修正しなければならない。初心者にとってはちょっと難しいかもしれない。マニュアルどおりに修正すればよい。詳しい人にやってもらえば、10分程度で終了。

マッキントッシュ + TimeLiner

ハードウェア：マッキントッシュを開け、NuバススロットにTimeLinerのボードを差し込む。特に設定はない。
ソフトウェア：TimeLinerに付属してきたドライバをコントロールパネルフォルダーにコピーする。ドライバにアイコンをクリックして、通信速度を『同期64Kbps』に設定する。あとは一度再起動すればOK。

非同期(38.4Kbps)

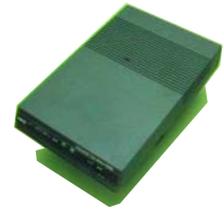
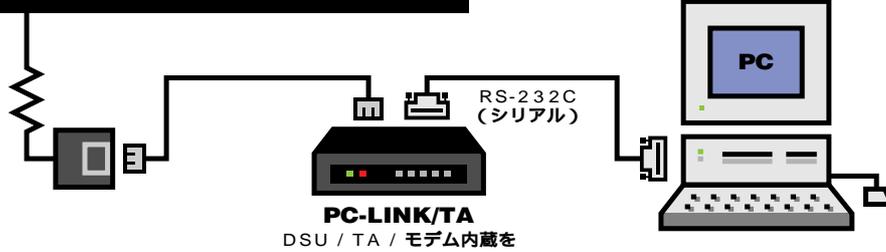
パソコンをモデム付きのターミナルアダプタに接続し、それをISDNのDSUという装置につなげる（DSU内蔵タイプの場合はローゼットに直結）。ターミナルアダプタは、モデムと同じような形をしたもので、モジュージャックの形が通常の電話のものよりも大きい。接続方法はモデムと大差ないので、誰にでも簡単にできる。

パソコンと電話の仲をとりもつ
ISDNをつなぐ

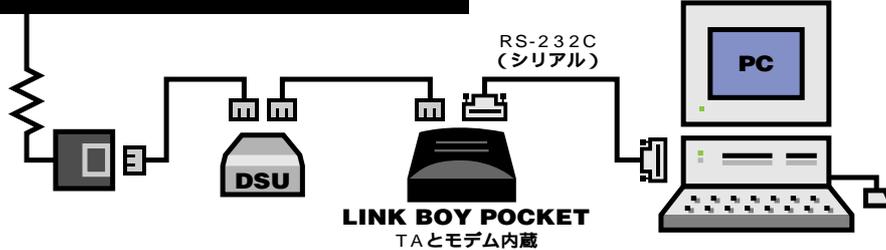
ISDN 機器の接続のしかたのバリエーション

非同期 38.4Kbps

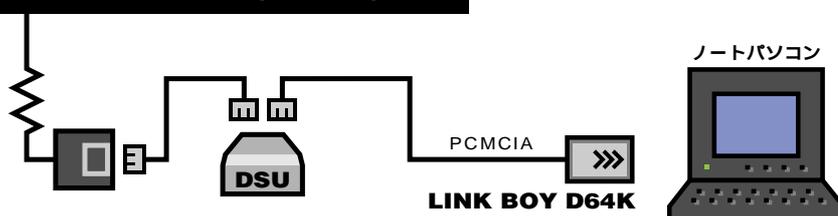
OKI PC-LINK/TAの場合



BUG LINK BOY POCKETの場合



BUG LINK BOY D64K (PCMCIA) の場合



同期 64Kbps

CSS TimeLiner の場合

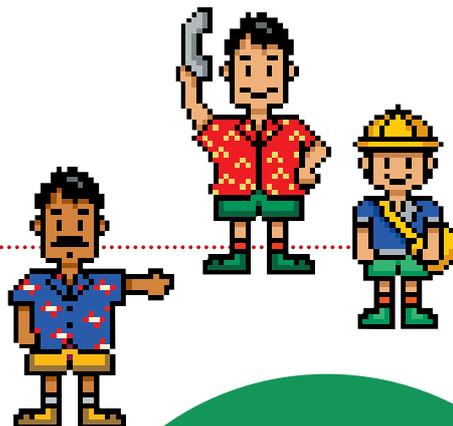


デジボード PC-IMAC の場合



【つなく】

C O N N E C T



ここでは付録のCD-ROMにも収録されているシェアウェア「トランペット(Trumpet)」を使って設定してみよう。トランペットは英語版なので、メッセージやマニュアルが英語のままだが、設定しなければならないところはそれほど多くないので心配いらない。製品バージョンのパッケージを買わなくても、このソフトウェアを中核としてフリーソフトウェアを集めてみるのも面白い。また、ここで例として示すのは61ページの表の「設定の簡単なプロバイダー」、つまりPAP方式の認証を採用しているところなので、PAP方式でないプロバイダーの場合は下のコラム『POINT』をみること。

ソフトウェア編
ウィンドウズコース
【トランペット】

この『トランペット』は、インターネットの世界では定評のあるソフトだ。接続するためのソフトだけではなく、本当に接続しているかどうかを確かめるpingというプログラムも付属している。

インストールは簡単で、CD-ROMから自分のハードディスクの好きなディレクトリにコピーするだけでいい。特別なインストール作業はない。

『トランペット』をはじめて立ち上げたときは、右のページのような設定画面から始まるが、一度設定したあとは、右のページの3番目の画面から始まるので、いきなり「Dialer」メニューの「Login」コマンドから選択できる。また、設定状態によっては、トランペットを立ち上げただけで、すぐに電話をかけて接続をしてくれるようにもできるのだ。

モデムのことにあまり詳しくない方ならこれで十分だが、多少でも腕に覚えのある方なら、「Dialer」メニューの「Edit Script」コマンドを選択すれば、ログイン手順の書いてあるプログラムを編集することができる。ここでモデムの初期化コマンドなどを入れたりすればいいわけだ。

また、バージョンはときどき上がるので、FTPサーバーもチェックしておこう。



POINT

PAP方式でないプロバイダーの場合

61ページの表で、「ちょっと設定の難しいプロバイダー」に分類されたところは、ログインスクリプトを書かなければならない。ログインスクリプトとは、ログイン時にプロバイダーのマシンから送られてくる文字列(たとえばLogin:とかPassword:などのプロンプト)と、それを受け取ったら自動的に送り出す文字列(つまりユーザーIDとかパスワード)を書いておくためのファイルだ。その手順は各プロバイダーによって異なるので、それぞれの設定ファイルが必要になる。本誌では、主要なプロバイダー用のログインスクリプトのひな型を付録のCD-ROMに収録した。



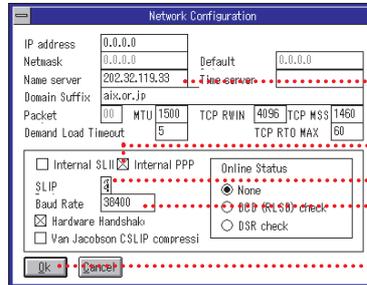
使い方

CD-ROMの¥special¥windowsディレクトリに入っているファイルの中から、接続したいプロバイダー用のものを選び出す。拡張子がcmdのものはファイル名を『startup.cmd』に変更する。また、拡張子がiniになっているものはファイル名を『trumpwsk.ini』に変更する。いずれもトランペット本体と同じディレクトリに入れておく。この状態でトランペットを起動し、「Dialer」メニューの「Login」を選べばOK。

ソフトウェア編ウィンドウズコース【トランペット】

① ネームサーバーや接続方式の設定

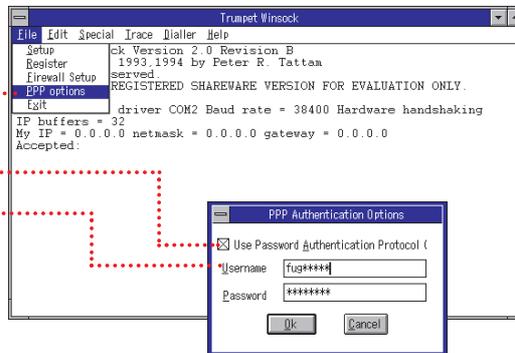
● プログラムマネージャからトランペットのアイコンをクリックするとこの画面が表示される。ここで各プロバイダごとの値を設定する。値はプロバイダのマニュアルなどに掲載してあるが、本誌の付録である『プロバイダ別完全接続ガイド』にもプロバイダごとの値が出ている。



● ネームサーバーのアドレスを入れる
● 基本的にはInternal PPPを選択する (SLIPのプロバイダーもあるので『設定ガイド』参照)
● 使うシリアルポートの番号を入れる
● 通信速度を入れる
● 設定が終わったらOKボタンを押す

② ユーザー名、パスワードの設定

● 『File』メニューから『PPP Options』を選ぶと『PPP Authentication Option』のダイアログボックスが表示される。
● 『Use Password Authentication Protocol』をチェックする
● プロバイダーから与えられた、ユーザー名とパスワードを入れる

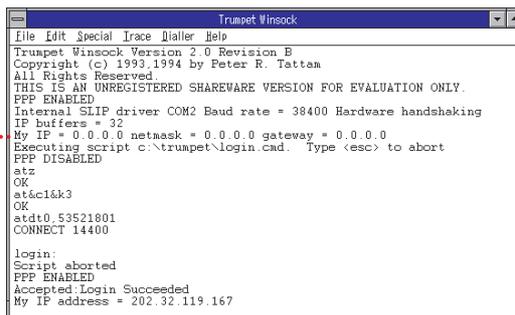
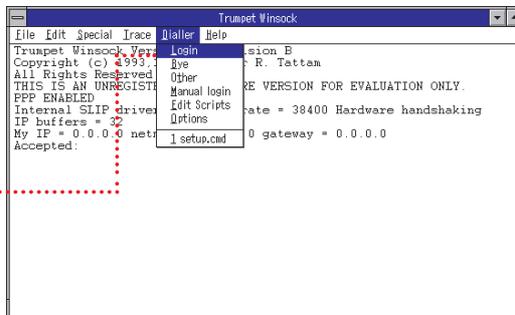


③ トランペットの再起動

● ここまで設定したら、『File』メニューの『Exit』コマンドを選択して、一度トランペットを終了させ、もう一度トランペットのアイコンをクリックして起動する。

④ ログインの実行

● 『Dialer』メニューの『Login』コマンドを選択する。するとプロバイダーの電話番号と、あらかじめユーザー名とパスワードを聞かれる。それに答えると自動的に接続される。
● プロバイダーの電話番号を入れる
● ユーザー名を入れる
● パスワードを入れる



⑤ 接続の確認

● ウィンドウの中に『My IP address = xxx.xxx.xxx.xxx』(xxxは毎回異なる値)と表示されれば、接続完了。

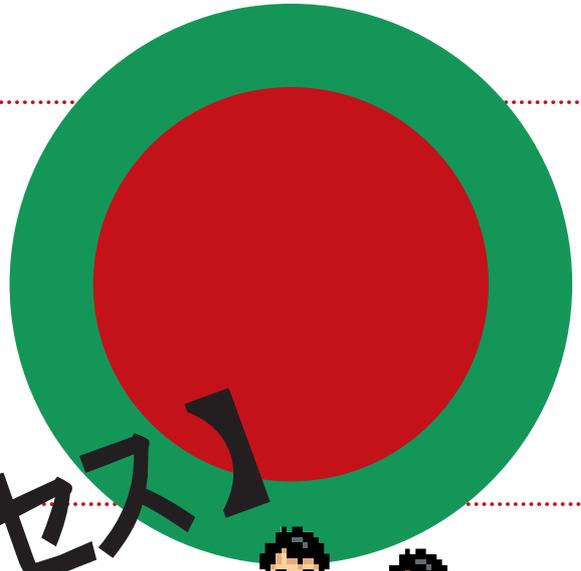
[つなく]

C O N N E C T

ウィンドウズNTには、標準でインターネットアクセス機能が付いている。LANにつないだときはもちろん、ダイヤルアップIP接続でも使える。アプリケーションもファイルを転送するためのFTPや他のマシンにログインするためのTELNETなどがある。WinSockに対応した電子メールやネットニュースを読むためのソフトウェアはフリーソフトウェアなどから自分で探さなければならない。

ソフトウェア編
ウィンドウズNTコース

リモートアクセス



ウィンドウズNTでは、ネットワーク機能が標準で用意されているので、LANにつなぐ人ばかりではなく、ダイヤルアップIPでインターネットを使う人にもお勤めの基本ソフトウェアだ。

しかも、ウィンドウズ3.1よりも安定しているので、WWWでネットサーフィンしている最中に、突然「落ちる」なんていうこともほとんどない。もちろん、ウィンドウ

ズ3.1用のアプリケーションも問題なく動く。ちなみに編集部ではウィンドウズNTを使っている人は多く、ウィンドウズ3.1のマシンを探すほうが大変なくらいだ。

また、ウィンドウズNTでは、複数のプロバイダーのダイヤルアップ用の設定を持つこともでき、一覧のなかからプロバイダー名を指定するだけで接続するようにもできる。

もちろん、WinSockというインターネットのアプリケーションを動かす機構も内蔵しているので、あとで紹介するウイメール(WeMail)やモザイクなども問題なく動かせる。

発売が予定されているウィンドウズ95でもネットワーク機能は標準で付いているので、今後はますますネットワークは使いやすくなることだろう。



POINT

PAP方式でないプロバイダーの場合

61ページの表で、「ちょっと設定の難しいプロバイダー」に分類されたところは、ログインスクリプトを書かなければならない。ログインスクリプトとは、ログイン時にプロバイダーのマシンから送られてくる文字列(たとえばLogin:とかPassword:などのプロンプト)と、それを受け取ったら自動的に送り出す文字列(つまりユーザーIDとかパスワード)を書いておくためのファイルだ。その手順は各プロバイダーによって異なるので、それぞれの設定ファイルが必要になる。本誌では、主要なプロバイダー用のログインスクリプトのひな型を付録のCD-ROMに収録した。



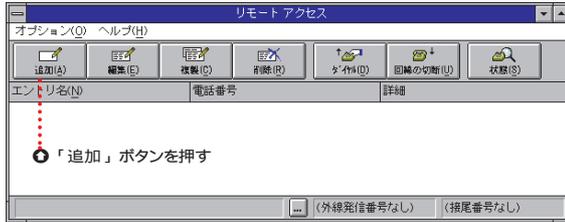
使い方

CD-ROMの¥special¥winntに入っているswitch.infとrasphone.pbkファイルをWINNT35¥SYSTEM32¥RASディレクトリにコピーする。これでリモートアクセスを起動したときプロバイダーの一覧が表示され、『セキュリティ』ダイアログの中の『ターミナルまたはスクリプト』の中でスクリプトファイルを選択できるようになる。電話番号は東京地域なので、他の地域の人は『編集』ボタンを押して修正する。

ソフトウェア編 ウィンドウズNTコース 【リモートアクセス】

1 リモートアクセスの起動

- リモートアクセスグループの中から『リモートアクセス』アイコンをクリックする。



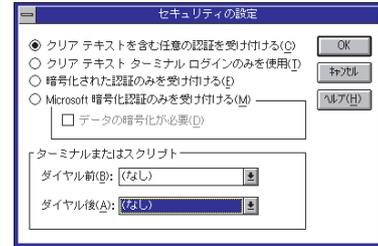
2 電話番号の設定

- プロバイダーの名前などを記入する
- 電話番号を入れる



☞ モデムのつながっているポートを指定する。ISDNボードを入れている場合は『ISDN』を選択する

☞ 「詳細」ボタンを押す



☞ 「セキュリティ」ボタンを押す



☞ 「ネットワーク」ボタンを押す

3 アクセス

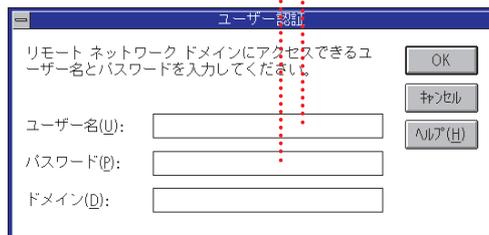
- ダイヤルボタンを押すと接続が始まる



☞ 「TCP/IP」ボタンを押す

4 ユーザー名、パスワードの設定

- プロバイダーから割り当てられたユーザー名を入れる
- プロバイダーから割り当てられたパスワードを入れる



☞ 「ネームサーバー」または「DNS」というマシンのアドレスを入れる。プロバイダーのマニュアルか本誌の別冊付録を参照。



5 接続の確認

ピッという音がなって、同時に表示されるインジケータが点灯すれば、接続成功。

「つなく」

C O N N E C T



マッキントッシュのシステム7.5からは『MacTCP』というソフトウェアが標準で添付されるようになってきている。これがインターネット機能を使うための要になるものだ。もし、システム7.5よりも古いバージョンのシステムを使わなければならない人は、本誌のCD-ROMのなかに『MacTCP』が収録してあるので、それを使って欲しい。

ソフトウェア編
マッキントッシュ

【MacTCP+MacPPP】

MacTCPはアップル社が開発した純正のネットワークソフトウェアだ。システム7.5からはシステムに標準で添付されているが、それ以前は個別に入手するしかなかった。このソフトウェアは、アプリケーションにネットワークの機能を提供し、接続先のネットワークもアップルトークやイーサトクなどと切り替えたりするスイッチの役割もする。パッケージソフトとして発売されてい

るPPPのソフトウェアも基本的には、MacTCPを前提としているものが多い。

さて、MacPPPだが、これはインターネットでは定評のあるもので、多くのマックユーザーの人が使っている。ここで使っている「2.1SD」というバージョンは、ISDNなどの高速な通信にも耐えられるように「テコ入れ」されたものだ。

設定はマッキントッシュらしくわかりや

すいので、右の設定手順をみながらやれば、誰でも簡単にできるだろう。いちばんの難関はMacTCPの設定だが、これも付録の小冊子をみながらやれば問題ない。

なお、「アップルリモートアクセス」などの別の通信機能と併用する場合、問題のあることもあるようだ。こうした問題が改善されるとさらに使い安い環境となると思う。



POINT

PAP方式でないプロバイダーの場合

61ページの表で、「ちょっと設定の難しいプロバイダー」に分類されたところは、ログインスクリプトを書かなければならない。ログインスクリプトとは、ログイン時にプロバイダーのマシンから送られてくる文字列（たとえばLogin:とかPassword:などのプロンプト）と、それを受け取ったら自動的に送り出す文字列（つまりユーザーIDとかパスワード）を書いておくためのファイルだ。その手順は各プロバイダーによって異なる。本誌の別冊付録「プロバイダー別完全接続ガイド」にプロバイダーごとの設定を掲載したので参照してほしい。



使い方

接続したいプロバイダーがPAP方式を採用していなければ、ログイン時にプロバイダーのマシンから送られてくる文字列（たとえばLogin:とかPassword:などのプロンプト）と、それを受け取ったら自動的に送り出す文字列（つまりユーザーIDとかパスワード）をあらかじめ設定しておかなければならない。それは、MacPPPの「Connect Script」ボタンを押すとその設定画面が出てくる。プロバイダーから送られてくる文字列などは各プロバイダーによって異なるので、別冊付録の「プロバイダー別完全接続ガイド」を見て設定する。ウィンドウズ用やウィンドウズNT用の設定ファイルは付属のCD-ROMに収録したが、マッキントッシュ用は残念ながら入れられなかった。

ソフトウェア編 マッキントッシュコース 【MacTCP+MacPPP】

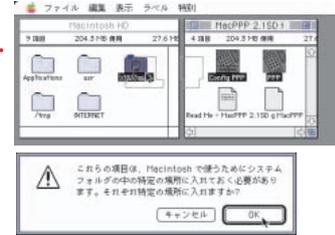
1 必要なファイルのコピー

MacTCPのインストール

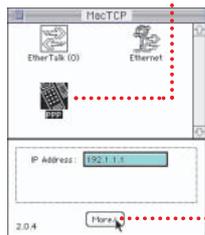


MacPPPとMacTCPをCD-ROMからシステムフォルダにコピーする。MacPPPとMacTCPのアイコンを「システムフォルダ」の上までドラッグして、マウスボタンを離せばOK。システムフォルダに入れていいかどうかを確認するメッセージが表示されるので『OK』ボタンを押す。コピーしたら、再起動する。

MacPPPのインストール



2 MacTCPの設定

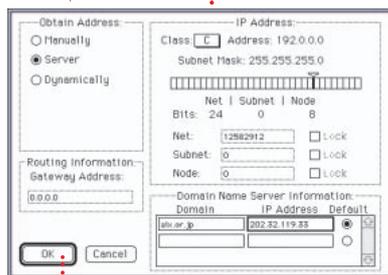


コントロールパネルでMacTCPのアイコンをクリックするとつぎの画面がでるので、PPPを選択する。

『More』ボタンを押す。

『Obtain Address』は『Server』に、『IP Address』は『Class C』に設定する。つぎに『Domain Name Server Information』には、接続するプロバイダから与えられたドメイン名とドメインネームサーバー（ネームサーバー）のアドレスを指定する。

『OK』ボタンを押せば終了。一度マッキントッシュを再起動すれば、いまの設定が有効になる。



3 MacPPPの設定

『Port Name』で『モデムポート』を選ぶ。ただし、TimeLinerを使う場合は、ここで『TimeLiner』を選ぶ（すでにコントロールパネルにTimeLinerのドライバをコピーしてあれば、ここに表示される）。

このボタンを押すと、PPPサーバーの名前を入れる画面が出るので、識別できる名前を入れておく（ここではaix.or.jpと入れてみた）。設定できたら『OK』ボタンを押す。

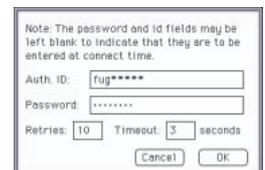
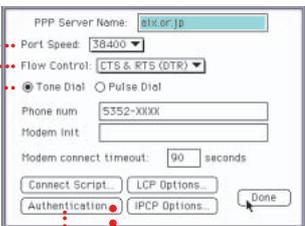
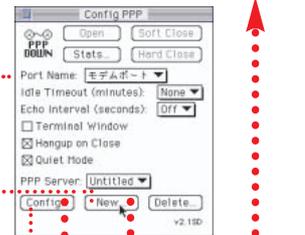
このボタンを押すと、モデムの設定などをする画面がでる。

ここでは『Port Speed』を指定する。28.8Kbpsのモデムの場合は、それよりも多少早めの38.4Kbpsに設定する。TimeLinerを使う場合はどの値でもかまわないし。

『Flow Control』を『CTS & RTS (DTR)』を選択する。

ダイヤル式の電話の場合は『Pulse』、プッシュホンの場合は『Tone』を選ぶ。ただし、プッシュホンでもバリエーションもあるので要注意。

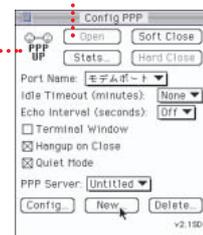
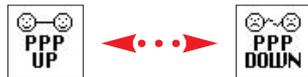
『Authentication』ボタンを押す。ここではユーザーIDとパスワードを入れる。



4 接続と確認

『OPEN』ボタンを押せばアクセス開始。

MacPPPの画面の顔の絵が「PPP UP」のアイコンに変わっていれば接続成功。接続を切るときは、『Soft Close』ボタンを押し、『PPP DOWN』になることを確認する。



使う

ENJOY NET SURFIN

インターネットへの接続が成功したら、いよいよインターネットを使ってみることにしよう。インターネットでできることはいろいろあるけれど、まずは電子メールとWWWにチャレンジしてみよう。いずれも本誌のCD-ROMに収録されているので、すぐにでも使い始められる。

まずは電子メールとWWW(ワールドワイドウェブ)

インターネットへの接続が成功したら、基本ツールである「電子メール」からチャレンジしてみよう。ダイヤルアップIP接続で利用する電子メールは、つぎような仕組みになっている。

まず、あなた宛の電子メールは、プロバイダーのメールサーバー(プロバイダーによってはPOPサーバーともいう)にたまる。これはちょうど郵便局の私書箱みたいなものだと思えばよい。

そしてMacTCPやMacPPPでプロバイダーに接続したあと、「ユードラ(Eudora)」「マッキントッシュ用」とか「ウィメール(WeMail)」「ウィンドウズ用」を立ちあげると、このプログラムが私書箱であるメールサーバーから手元のパソコンにメールの束を持ってきてくれる。そして、メールを出すときは、郵便局のポストに相当するメールサーバー(プロバイダーによってはSMTPゲートウェイという)に持っていかけてくれるのだ。これらのマシン名の設定は、加入したプロバイダーによって違う。

ここではマッキントッシュを使っている方には「ユードラ-」, ウィンドウズを使っている方には「WeMail」の設定を紹介しているが、プロバイダーによって違うこれらの値はプロバイダーに加入したときにもらえるマニュアルに書いてあるし、本誌の別冊付録の小冊子ではプロバイダーごとの値をまとめてあるので、ぜひ参考にしてほしい。

仕事に遊びに

【電子メール】



for ウィンドウズ【電子メール】

準備

ハードディスクにWeMail用のディレクトリを作り、そのディレクトリにCD-ROMの¥WIN¥MAIL¥MAILER¥WEMAILディレクトリにあるWEML111.LZHというファイルをコピーする。このファイルは複数のファイルを圧縮して1つにしてあるものなので、LHA(CD-ROMに収録)というプログラムを使って圧縮を解く。解き方は本誌の193ページを参照のこと。

圧縮を解くとWMSETUP.EXEというプログラムが現れるので、これをウィンドウズのファイルマネージャから起動する。ウィンドウズのプログラムマネージャにWeMailのアイコンが自動的に登録される。

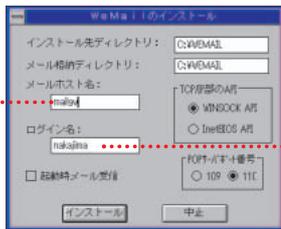
設定 ① WeMailの起動



設定 ② プロバイダー固有の情報の入力

「メールサーバー」とか「POPサーバー」という名前がプロバイダーが説明しているマシンの名前

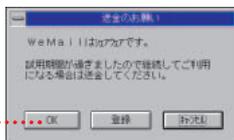
あなたのメールアドレスの名前の部分 (PPP接続時に使用したものではない)



設定 ③ シェアウェアの確認

OKボタンを押す

作者への送金の仕方はWeMailと一しょに入っているファイルを参照のこと

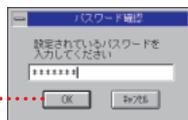


シェアウェアとは?

ネットワークやCD-ROMなどを使って無料で配布しているソフトウェアだが、それを手に入れた人が使い続ける場合は作者(会社)にお金を支払うというもの。無償で配られているからといってフリーソフトウェア(無料のソフトウェア)とは異なる。シェアウェアはお金を払わなくてもある一定期間は使えたり、機能が制限された上で使えるものが多い。

設定 ④ パスワードの入力

PPP接続時のものではなく、メールボックス用のパスワードとしてプロバイダーから与えられたもの

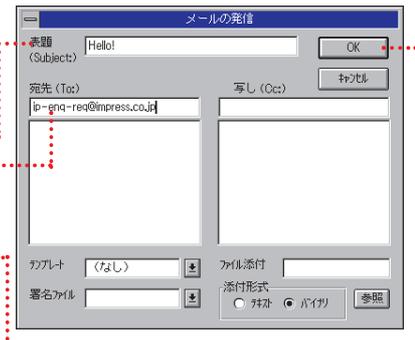


送信 ⑥ 新規メールの選択

「通信」メニューの「新規メール」を選択すると、宛先を入れるダイアログボックスが表示

表題入れる
宛先入れる(ここではインターネットマガジンのアンケートシステムにメールを出してみよう。宛先は「ip-enq-req@impress.co.jp」だ)

宛先が正しければOK

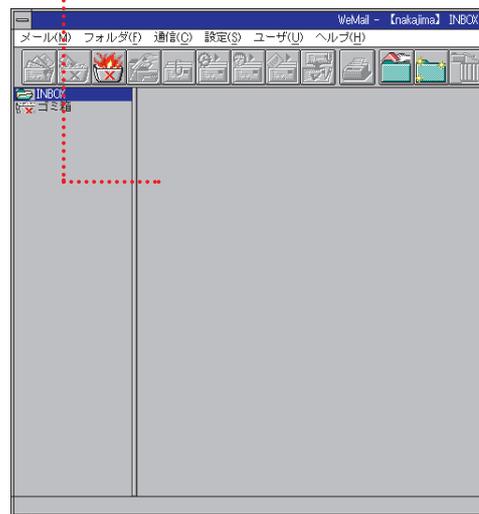
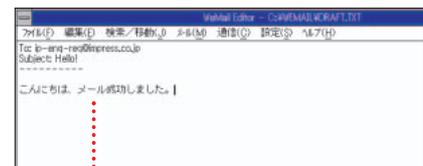


基本機能 ⑤ WeMailの起動

これがWeMailが起動したところ

あなた宛のメールがあると、ここに一覧として表示される

メッセージをクリックするとメールを読む

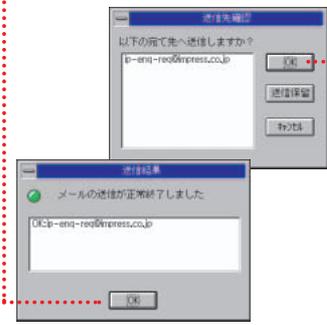


送信 ⑦ 編集用プログラムの起動

メール編集用のプログラムが起動する。書き終わったら「ファイル」メニューの「終了」コマンドを選択
本文を書く

送信 ⑧ 宛先の確認

よければOK



送信 ⑨ 送信結果の表示

送信がうまくいけば、遅くとも数分くらいでインプレスから自動的にアンケート用紙が送り返されてくる。せっかくだから、これに記入して、アンケートを出してほしい!!

for マッキントッシュ【電子メール】

準備

ハードディスクにEudora-J用のフォルダを作り、そのフォルダにCD-ROMの確固「MACフォルダ」-「MAILフォルダ」-「MAILERフォルダ」-「Eudoraフォルダ」をコピーする。このフォルダの中にあるEudora-J1385アイコンをクリックする。

起動 1 Eudora-Jの起動

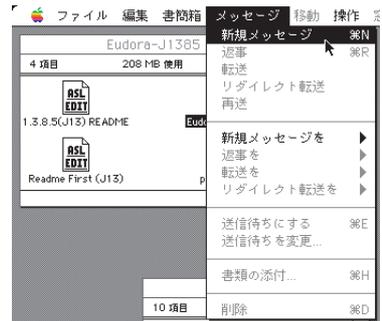
クリックする



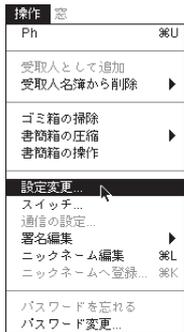
送信 4 「新規メッセージ」を選択

送信 5 メッセージの作成

ここではインプレスのアンケートシステムにメールを出してみよう。宛先は「ip-enq-req@impress.co.jp」だ。「Subject」には表題を書くここにメールの本文を書く終わったら押す



起動 2 プロバイダ情報の設定



送信 6 新規メールの送信

送信がうまくいけば、遅くとも数分でインプレスから自動的に返事のメール(アンケート用紙)が送り返されてくる。これに記入して、アンケートを出してみよう!!



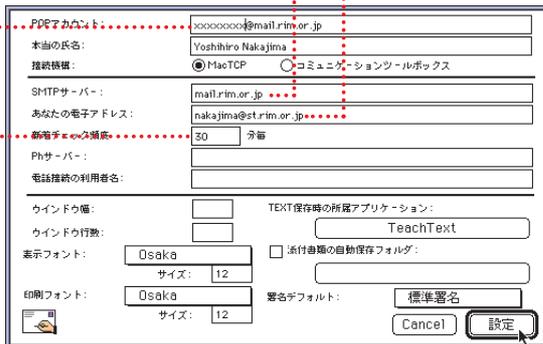
起動 3 設定画面

あなたの名前とメールサーバー (POPサーバー) の名前を「@」で区切って入れる (メールアドレスとは違うので注意)

SMTPサーバーの名前を入れる (POPサーバーと同じ名前の場合もある)

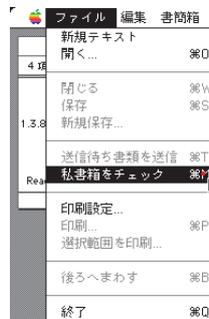
あなたの電子メールアドレス (間違えると返事が来ないので注意)

何分ごとに私書箱をチェックするかの指定



受信 7 新規メールの選択

私書箱をチェックを選ぶ



受信 8 メールが届く

新しいメールが来ていると教えてくれる



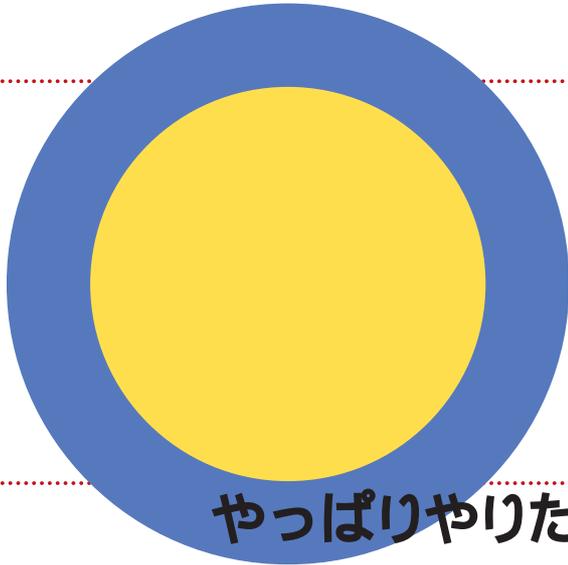
受信 9 メッセージの一覧を表示

クリックすると読める



[使う]

ENJOY NET SURFIN



やっぱりやりたいのは

【WWW】

WWWという名前は、世界中のコンピュータにある情報をそれぞれ関連づけて(リンクして)ページをめくるようにしてつぎつぎジャンプできるという「しくみ」の名前で、これを見るためには「ネットスケープナビゲーター(ネットスケープ社)」や「モザイク(米国イリノイ大学スーパーコンピュータセンター)」や「ウェブサーファ(ネットマネージ社)」というソフトウェア

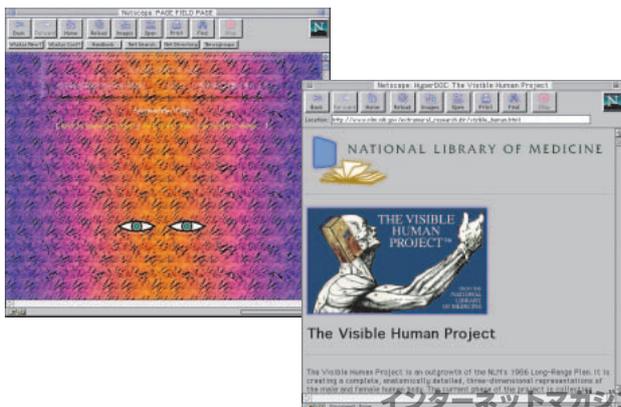
が必要になる。なかでも世界中でもっとも注目を集めているのが「ネットスケープナビゲーター」で、本来は有料の「商品」なのだが、実際には評価のためという名目でFTPサーバーから誰でも入手できる(URLは、ftp://ftp.netscape.com/netscape/)。残念ながらCD-ROMへの収録の許可は下りなかった。

本誌のCD-ROMの中には、日本電気の

インターネットへの接続を目指す人の目標はやっぱりWWW(ワールドワイドウェブ)だろう。新聞や雑誌などでインターネットが取り上げられるときに必ず出てくるのがこのWWWなのだ。グラフィックスを使ったきれいな画面とマウスで操作できるというカンタンな操作性ということがこれだけのブームを作り出したのだろう。



「モザイクビュー(ウィンドウズ用)」、富士通の「インフォモザイク(ウィンドウズ用とマッキントッシュ用)など、何種類かのWWWのソフトウェアが収録してある。ここではウィンドウズを利用している人には日本電気の「モザイクビュー」、マッキントッシュを使っている人には富士通の「インフォモザイク」を例にして、インストールと若干の使い方を解説することにする。



これがいま話題のネットスケープだ!

WWWの表示ソフト(ブラウザという)には、いろいろな種類があるが、いま最も話題なのがネットスケープナビゲーター(ネットスケープ社)だ。残念ながら、CD-ROMへの収録はかなわなかったが、簡単にダウンロードすることができる。ここで紹介する「モザイクビュー」や「インフォモザイク」のURLに「ftp://ftp.netscape.com」と入力して、表示されたメニューからnetscapeという項目をクリックする。そして、ウィンドウズユーザーならwindows、マックユーザーならMacをクリックすると、ファイル名が表示されるので、それを選ぶ。これであとはあなたのハードディスクにダウンロードされる。このように、WWWのブラウザはファイル転送の機能も備えているので、難しいFTPコマンドを覚えなくてもOKなのだ。

for ウィンドウズ【WWW】

準備

CD-ROMの¥WIN¥WWW¥BROWSER¥MOSAICV ディレクトリにあるDISK1 ディレクトリにあるSETUP.EXE プログラムをファイルマネージャで起動する。あとは自動的にハードディスクにインストールして、プログラムマネージャにアイコンが表示される。

1 「モザイクビュー」の起動

アイコンをクリックする



2 最初のページの表示

これはハードディスクに入っているページが表示されている。ネットワークへのアクセスはこれからだ。

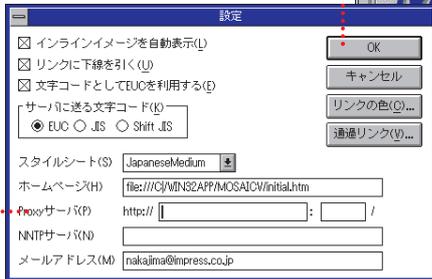
- 一つ前のページに戻る
- 一つ先のページに戻る
- 現在見ているページの場合
- ネットワークにアクセスしているときは地球が回転する



3 設定の変更

自分のメールアドレスを入れておく (WWWの中からメールを出せるのだ) 指定しないでも大丈夫だが、プロバイダのマニュアルに「Proxy (プロクシー)」を設定するように書いてある場合はここに指定する

よければ押す



5 読み込み成功!

これがインプレスのホームページ。いま話題の「秋葉原マップ」をはじめ雑誌で紹介されたページへもジャンプできる。

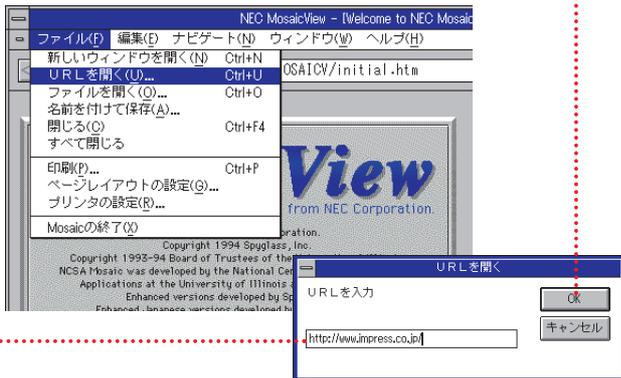
青い文字や画像をクリックしてみよう

4 接続先の指定

URL という形式で読みたいページの場合を指定する。最初にインプレスのホームページを見てみよう。

「http://www.impress.co.jp」と入れる

よければ押す





for マッキントッシュ【WWW】

CD-ROMの「MAC」フォルダーの「WWW」フォルダーの「BROWSER」フォルダーの「IMOSAIC」フォルダに入っている「InfoMosaic.sea」をクリックする。

準備

1 必要なファイルをコピー

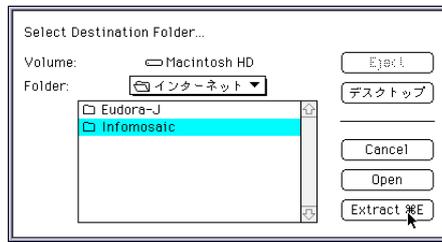
ファイルの圧縮を解き、ハードディスクにファイルをコピー。アイコンをクリックする



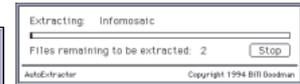
2 インストール先の指定

CD-ROMからコピーする先のハードディスクのフォルダを指定する

よけおしを押す



3 ファイルのコピー中



4 コピー成功

Infomosaic フォルダを開く



5 infomosaicの起動

地球のアイコンをクリック



6 ホームページの読み込み

ネットワークから富士通のページを読み込む

最初に文字だけ読み込む

あとから画像を読み込むところはこの記号で表わされる



7 読み込み終了

富士通のページが表示された。

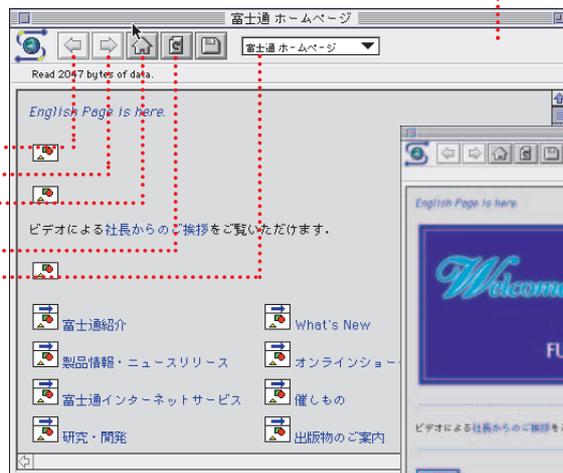
一つ前のページに戻る

一つ先のページに戻る

ホームページ(この場合は富士通のページ)に戻る

もう一度同じページを読み込む

現在見ているページの名前



8 ジャンプ

インターネットマガジンのページにジャンプ

「ファイル」メニューの「URLを開く」コマンドを選択するとこのダイアログボックスが表示される。

インプレスのサーバーのURL「http://www.impress.co.jp/」を入れてみよう

よけおしを押す





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp